

Q14 適応指導教室に通級している児童生徒が、保健室等登校を始めました。保健室等で受け入れる際の留意点を教えてください。

現 状

- 1 適応指導教室に通級している児童生徒は、不登校をなんとか克服しようと努力している。学校とは異なる場所で、少人数の活動を通して人とのかかわりを深めたり、学習の遅れを取り戻したりしている。
- 2 適応指導教室では、通級生の状況やニーズに応じ、それぞれの適応指導教室の物理的・人的な環境等を活用しながら対応している。
- 3 適応指導教室への受入れ、学校への復帰は、通級生や保護者の希望、適応指導教室の指導員の意見、学校の意見等を総合して管理する教育委員会が判断するので、教育委員会との綿密な連携が必要である。

考えられる対応例

- 1 適応指導教室と学校が日常的に情報交換を行い、通級生の現状を十分に把握することが大事である。

ともすると、学校（担任）は、適応指導教室に通級させているという安心感から、任せきりになることもある。通級時の状況を電話で尋ねたり、直接指導員と面会して聴くことはもとより、通級している時間帯に適応指導教室を訪問し、児童生徒と一緒に活動したり、観察したりすることが必要である。

- 2 学校復帰は、通級生や保護者の希望を十分に尊重して行うことが大事である。

適応指導教室では、学校での学習や対人関係と異なる環境で活動しているため、継続して通級することができても、学校にはすぐには適応できないことも考えられる。学校復帰への準備が整っても、無理に教室での学習を求めず、徐々に適応させていくことが大事である。そのため、保健室等を効果的に活用することが大事である。

- 3 適応指導教室への通級生が、保健室等登校を希望する場合は、それまで積み上げてきた適応指導教室での人間関係や学習を基に、対応計画を作成する必要がある。

学校は、サポートチームを編成し、情報収集、仮の目標の設定、対応計画の提案・検討、実践、評価・修正という手順で行うことが大事である。その際、適応指導教室の指導員を、サポートチームに適宜加えて検討することが有効である。

学校の教職員と適応指導教室の指導員が必要に応じて相互に出入りできる環境を整え、適応指導教室から学校への復帰がよりスムーズに図られるように工夫することが大切である。

